

本科 0 期 2 月度

解答

Z会東大進学教室

難関国公立大・医学部英語／難関大英語 T

京大英語／難関大英語 T (京大)

一橋大英語／難関大英語 T (一橋大)



4章 総合問題4

問題

【1】

A.

全訳

多くの人々が持つ、有名人に会いたいという情熱を、私はずっと以前から不思議に思ってきた。有名人と知り合いだと友人に語ることができることで獲得する名声などは、自分自身がつまらない人間だということを証明するだけなのである。有名人は、偶然出会った人をあしらう演技を磨いている。彼らは世間に對して仮面、それもしばしば印象的な仮面を見せるが、眞の自分自身を隠すよう注意を払っている。彼らは自分が期待されている役割を演じ、練習することによって、それをとてもうまく演じるようになるのだが、この人前での演技がその人の内面と一致していると考えるなら、まぬけなことである。

B.

全訳

かつて教育において——私はその時のこととをようやく思い出すことができるのだが——科学がその生命をかけて、勇敢に、献身的に戦った時期があった。①それは、ホメーロスをけつにたたき込まれていればどんな愚か者であっても、聰明で探究心旺盛な自然哲学者よりも、よりよい教育を受けていると思われる時代であった。しかし、現在の教育の世界は、ぼんやりとした形で満ちている。宗教的な教訓や文学へ頭を下げて従う一方で、尊敬や実現されそうもない明るい未来や権力の場である実験室（＝科学）にも注意を払う。芸術とは、取るに足りない間柄になりつつある。②なぜなら芸術は、病気を治すことも、生産を増加させることも、守備を確実なものにすることもできないからである。

【2】

ポイント

論説文の長文総合問題。読みやすいテーマで標準的なレベルの単語、英文が使われている。下線部和訳、内容説明問題が中心で、下線部和訳問題では文法的に難解な箇所はないものの、直訳ではぎこちない日本文になるため訳にひと工夫が必要。

解答

- (1) 「全訳」の下線部①, ②参照。
- (2) ④ b ⑤ a
- (3) ⑥ c ⑦ b
- (4) 人類が長い歴史を生き抜いてきた单一の種であることに気づけば、対立や相違を解決するのに役立つから。(48字)

別解 私たちが人類という同一の種に属すことがわかり、紛争や戦争の原因となる問題や相違を解消できるから。(48字)

解説

(1) ① Many questions remain to be answered,

S₁ V₁ C

and

not all the answers 〈collected to date〉 will stand the test of time.

S₂ ↑ V₂ O

前半の節は 'remain to be + 過去分詞' で、「…されずに残されている；まだ…されずにいる」の意味。

後半の節は not all ~ で部分否定を表している。「すべての答えが…とは限らない」という意味。collected to date は名詞 the answers を後ろから修飾している過去分詞句。to date は「現在のところ；今までのところ」の意。stand ~ は「～に耐える」という意味の他動詞である。test はここでは「試す手段；試練」という意味で、stand the test of time は「時の試練に耐える」つまり「長く歴史に残る」という意味を表す。

② This process mirrors {what happened elsewhere in the world},

S V O

with our species establishing its rule over the Earth within ~ in ...

付帯状況の with

mirror ~ は「(鏡のように) ~を映す；～にそっくりである」という意味の他動詞。

目的語は先行詞を含む関係代名詞 what 節である。with 以下は with のついた独立分詞構文で、分詞構文の主語が our species。付帯状況を表す。rule over ~ は「～の支配」の意。over 以下は長い副詞句になっているので、整理して訳すこと。in evolutionary terms = in terms of evolution で、「進化の観点から」という意味。

(2) ③ result は「結果；結末」などの意味。直前で Whatever the case (どんな場合でも) と言っているのは、第2段落で、ホモサピエンスの登場とともにそれまでいた他の種の人類が消滅してしまった理由を考察しているのを受けている。その理由は明らかになってはいないが、結果は明らかである、という文脈。本文第2段落全体の内容を参考にすると、これは b 「ホモサピエンス以外のどんな種も生存競争に勝てなかつた。」という結末が明確であるということである。b の文中の but ~ は「～以外は」という意味の前置詞。その他の選択肢の意味は、a 「ホモサピエンスは他の種の人類と交じって現生人類になった。」，c 「環境がとても厳しく、ホモサピエンスはそれにうまく順応することができなかつた。」，d 「私たちはホモサピエンスを含んだ人種の子孫である。」で、いずれも本文の内容と一致しない。

④ 下線部を含む部分は、「それもまた複雑な物語である」の意。第3段落では、アジア大陸から日本へやってきたいいくつかの集団の人間が交雑していった歴史が述べられているので、that はその第3段落の内容を受けている。よって、a 「どのように日本でいろいろな集団が交じり合ったか」を選ぶ。b は「人類が日本でどのように氷河期を生き抜いたか」の意。l. 26 に日本で氷河期を生き抜いた人間がいることは述べられているが、どのように生き抜いたかについては記述がない。c は「日本がどのように大陸から分離したか」の意。l. 24 の日本とアジア大陸の地形の変

化は、それによって大陸から日本へ人間がやって来たことを説明するために述べられたもの。d 「古代日本でどのように技術が進歩したか」については本文に記述がない。

- (3) ⑤下線部の that 以下は「ホモサピエンスがさまざまな種類の人類と交配した」という意味なので、「…ということを証明するような、強い遺伝学的証拠はこれまでなかった」の部分を組み立てる。「これまでなかった」とあるから、現在までのつながりを表す現在完了形と考え、動詞は has appeared とする。「…はなかった」という否定の文なので、主語に no をつけることで否定の意味を表す。よって、主語 strong genetic evidence(強い遺伝学的証拠) に no をつける。prove that … で「…ということを証明する」という意味だから、that の前に to prove を置く。

→ No strong genetic evidence has appeared to prove (that …)

⑤ ⑦ ③ ② ④ ① ⑧ ⑥

⑥下線部カッコの前の「共通の目的とアイデンティティ」を主語とする。動詞部分は may be essential とつながり、essential は形容詞なので、これに修飾されるべき名詞を探すと elements (要素) があるのでこれを続ける。「将来に向けてのそんなにも長い旅の（ための要素）」は、「～に向けて」を for ~ で表し、for that long journey into the future とする。

→ may be essential elements for that long journey into the future

⑤ ① ② ③ ⑥ ④ ⑦

- (4) 先史時代を学ぶことの重要性は第4段落に述べられている。なかでも、第1文の When we consider our prehistory as a single human species (先史時代に人類が单一の種であったと考えれば) で始まる文が、参考になるだろう。続いて、our present difficulties and disagreements, …, can appear to fade away (今日の私たちの問題や相違は解消できるだろう) と、先史時代を学ぶことによってもたらされる効果について述べられている。この効果は第3文でも Prehistory therefore may help in resolving some of our conflicts and differences (したがって先史時代は対立や相違を解決するのに役立つだろう) と繰り返されている。すべてを訳して盛り込んではとても50字では間に合わないので、重要な「人類が单一の種であることを知る」→「対立や相違の解決に役立つ」という2点を中心まとめる。字数制限にまだ余裕がある場合にはより具体的に、「人類が長い歴史を生き抜いてきた」ことなどを補足説明として含めてまとめたい。いずれにしても最低40字以上、できれば45字以上にまとめること。

全訳

アジアにおける現生人類の進化とは、複雑で簡単には語れない物語である。多くの疑問がまだ答えられておらず、これまでに集積されたすべての答えが時の試練に耐えられるとも限らないだろう。しかし、確かなことが1つある。それは、人類の進化の歴史に関する多くの問題を解くには、1種類の説明だけでは十分ではないということだ。真実に到達するためには、科学的な分析を歴史的な研究と結び付けなければならない。完璧な真実がわかるることは決してないかもしれないが、この疑問に取り組んだすべての科学者や学者によって、いく

つかの事実が真実だと認められているようだ。現生人類は 50,000 年前から 60,000 年前の間にアジアに現れた。彼らはすぐにそれまでのすべての種類の人類に取って代わった。この説は圧倒的多数の研究者によって事実として受け入れられてきた。40,000 年前から 30,000 年前の間に、ホモサピエンスは日本に現れた。**⑤この過程は、世界の他の場所で起きたこととよく似ており、進化の観点からは比較的短い間に人類は地球上での支配を確立した。**

それまで存在していた他の種類の人類が歴史から消滅したことは、依然として謎のままである。ホモサピエンスが昔のさまざまな種類の人類と交配したことを証明するような、強い遺伝学的証拠はこれまでなかった。私たちは、私たち自身の種類の人類（＝ホモサピエンス）の子孫に他ならないのだ。それでは、ホモサピエンスは 50,000 年前の自然環境を生き抜くのにより適していただけだったのだろうか、あるいはホモサピエンスは昔のさまざまな種類の人類をすべて殺してしまったのだろうか？ 両方の仮説を支持する論拠を集めることが可能である。それとも、これらの昔の人類に、誰にもまだ想像できないようなことが起こったのだろうか？ いずれの場合にせよ、その結末は明らかである。この時代に起こった最後の大氷河期が複雑な要因を付け加えているが、それは、ホモサピエンスであろうがなかろうがほとんどの人類の消滅を引き起こしたであろうから、つまりはホモサピエンスがそのような危機に対処する力を以前の種類の人類より身に付けていたことを示唆している。

現在日本として知られている陸地は、いろいろな時期にアジア大陸とつながったり離れたりしてきた。そして人類のさまざまな集団が日本にやってきた。約 15,000 年から 10,000 年前の最後の大氷河期には、日本に人類が生き延びており、アジア大陸からの移住者が寄せ集めの集団にさらに別の集団となって加わり、一緒になった。しかしすべてが現生人類であり、すべてがホモサピエンスであった。それもまた複雑で、必ずしも完全に理解できる話ではないが、現代の日本人の大多数はこれらの人々の子孫なのである。

今日の私たちの問題や不一致は、すべてが紛争や戦争という結果になることがあまりにも多い。しかし、私たちが先史時代に单一の人類の種であったと考えれば、言語や習慣にはたくさんの種類があり、私たちの外見も異なっているにもかかわらず、私たちが本当に 1 つの民族であるという知識に置き換えられてそのような問題や相違も解消できると思われる。このように、先史時代の研究のおかげで、私たちは人間であるとはどういうことかについて考えるための有用な観点を持ち、人類を全体として長い目で見ることができるのである。したがって先史時代は、私たちにホモサピエンス種として過去 40,000 年以上を生き抜いてきたことを思い出させることによって、対立や相違のいくつかを解決するのに役立つだろう。もしこれからもう 40,000 年生き抜こうとするなら、共通の目的とアイデンティティを持つことが、将来に向けてのそんなにも長い旅の重要な要素になるかもしれない。

注.....

ℓ. 3 ◇ that no one kind of explanation is adequate to solve the many issues involved in ~
「…するのに十分である」

コロンの前の one thing の説明をしている部分。接続詞 that が文頭に置かれ、全体が名詞節の形になっている。否定語 no に注意する。

ℓ. 8 ◇ take the place of ~ 「～に取って代わる」

ℓ. 16 ◇ other than ~ 「～以外の」 ここは、「～以外のどんな人類の子孫でもない」が直訳。

Ex. The plane was a little late, but *other than that* the journey was fine.

(飛行機は多少遅れたが、それを除けば旅行は快適だった。)

ℓ. 19 ◇ in favor of ~ 「～に賛成の；～に味方して」

◇ Or, did something happen to these earlier humans {that no one has yet imagined} ?

関係代名詞節と先行詞が離れていることに注意。

ℓ. 22 ◇ be equipped to … 「…する知識〔実力〕を備えている」

ℓ. 25 ◇ make one's way 「(苦労して) 進む」

ℓ. 30 ◇ not necessarily … 「必ずしも…ではない」 部分否定の表現。

ℓ. 31 ◇ {When we … species},

副詞節

our present difficulties and disagreements, {which all … war},
S 関係代名詞節

can appear to fade away,

V

replaced by the knowledge {that we … people <despite ~>}.
分詞構文 同格

ℓ. 38 ◇ … and if it is to survive for another 40,000 years,

it = Homo sapiens である。be to … はここでは‘意思’を表す。「…しようとするなら」の意で、この意味の be to … は条件節に用いるのが普通。

【3】

A.

解答

- (1) This road will take you to the station. [If you take this road, you will get to the station.]
- (2) The older you get [become], the faster time goes [passes].
- (3) I was careful not to say anything to make him angry.
- (4) His death was not made public for a while.
- (5) His wife accused him of not loving her as [so] much as (he did) before.

解説

- (1) 日本文をそのまま英語にしたのがIf you take this road, you will get to the station.で、もちろんこれでも正解。ただ、より簡潔な表現が、「この道が（あなたを）駅に連れていってくれます」と考え、this road を主語にした This road will take you to the station. という英文。
- (2) 「～すればするほど…する」という日本文を見てすぐに思い付くのは、the 比較級～, the 比較級…の構文で、ここでもそれを用いればよい。
全体の主語は「人々一般」を表す you または we とする。
「年をとる」は get [become] older だから、「年をとればとるほど」は the older you

[we] get [become] となる。

「時間が経つのが速い」は time goes [passes] fast で表せるから、「時間が経つのがより速くなる」は the faster time goes [passes] とすればよい。

- (3) 「私は…しないように気を付けた」は I was careful (so as) not to … で表せる。

「彼を怒らせるようなことを言う」は say something to make him angry とするか、「彼を怒らせるかもしれないこと」の部分に関係代名詞を用いて、say something that might make him angry とする。something は not to say の後なので anything になる。

したがって、I was careful not to say anything to make him angry. となる。

- (4) 「～を公表する」は、public という語が与えられているので、make ~ public という表現を思い付いてほしい。ここでは「彼の死」を主語とした受動態にして、his death was not made public となる。

○「しばらくの間」for a while, for some time

- (5) 「…と、～を責めた」という日本文だが、accused という語が与えられていることから、accuse A of B (BのことでのAを責める) という表現を用いることになる。したがって、「…愛してくれない」ということで彼を責めた」と読み換えて、accused him of not loving … となる。

「以前ほど…ない」は、as, before が与えられているので、not … as [so] much as before とすればよい。

B.

解答

- (1) What do you like about this school? [What (part) is good about this school?]
- (2) Tell her not to get [go] close to [near] the dog.
- (3) I almost [nearly] left my umbrella on [in] the train.
- (4) Japanese is often said to be a difficult [complicated] language.
- (5) You were so late that I was just about [going] to phone you.

解説

- (1) 「about を用いる」という指示だけなので、「この学校について何が好きですか」と考えて、What do you like about this school? とするか、「この学校に関してどんなところがいいのですか」と考えて、What (part) is good about this school? とすることもできる。
- (2) 「Aに…するように言う」は tell A to …, 「Aに…しないように言う」は tell A not to … となる。
「～に近付く」は get [go] close to ~, または get [go] near ~ でよい。
- (3) 「(もう少しで) …するところだった」は、簡単に almost [nearly] …で表すことができる。したがって、「傘を忘れるところだった」は I almost [nearly] left my umbrella となる。
○「電車に」in [on] the train
- (4) 「～は…であると言われる」には、it is said (that) ~ …, ~ is said to … の2つの

表し方があるが、ここでは Japanese が said の前にくるという指示があるので、後者の形を用いる。

○「難しい言語」 a difficult [complicated] language

- (5) 「あまり～ので…だった」という日本文から、so ~ that … 構文を用いる可能性を考える。「あなたの来るのがあまり遅いので」の訳し方で悩むかもしれないが、英語ではただ you were so late とすればよい。

「今…するところだった」は、just が与えられているので、be just about to …、または、be just going to … を用いる。

「電話をする」は与えられた phone を動詞として使って、phone you とすればよい。

【4】

解答・解説

- (1) which I thought it was a lie → which I thought was a lie (which → but も可。)

「ジョージは携帯電話を失くしたと言ったが、それは嘘だと思った。」

- (2) Whatever → However

「あなたがどんなにお腹が空いていようと、がつがつ食べてはいけません。時間をかけて食べなさい。」

whatever には複合関係形容詞の用法があるが、その場合でも名詞を修飾する。

hungry という形容詞を修飾するには複合関係副詞 However にする。

- (3) which → as

「知性を拡大するような本を学生たちには読ませなさい。」

先行詞に such があるため関係詞は as (疑似関係代名詞) を用いる。

- (4) whose the roof → whose roof [the roof of which]

「あそこに屋根が見える家は、先生の家です。」

You can see its roof over there. から。

- (5) whom を削除

「先日手紙で書いた教授は、去年フィールズ賞を取った。」

The professor が主語で、won が動詞となることに注意。

【5】

解答

- (1) Millionaire as [though]

- (2) Unless

- (3) (so) that, miss

- (4) his [him] leaving the office at once

- (5) It seems, my daughter (has) lost her way

- (6) the criminal, be arrested quickly

- (7) read this story without being moved to tears

- (8) my stay in London

- (9) will take you
(10) pride, allow her to ask others for help

解説

- (1) 「彼女の父は百万長者だったが、決して金儲けの機会を逃さなかった。」
○ X as [though] S V, ~ = Though S V X, ~
- (2) 「自身のひどい行いについて謝罪しない限り、二度と口をききません。」
○ 命令文, or S V. 「…しなさい。さもないと S V.」
○ Unless S V, 「S が V しない限り」
- (3) 「その急行列車に乗り遅れないように彼らは駅まで走った。」
○ so that S may [can ; will] … 「S が…するために」
- (4) 「ジョーンズさんは、彼が直ちにオフィスを出るように主張した。」
○ insist that S V = insist on + 名詞なので, leave を動名詞にする。
- (5) 「私の娘は森の中で迷ってしまったように思われる。」
○ It seems that S V. = S seems to ….
- (6) 「我々の大半は、その犯人がすぐに逮捕されることを期待している。」
○ expect ~ to … 「~が…するのを期待する」
- (7) 「この話を読むと必ず感動して涙が出る。」
○ never [cannot] ~ without …ing 「~すると必ず…」
- (8) 「ロンドン滞在中、オリンピックスタジアムに行った。」
○ during は名詞を取る。…ing は取れないことに注意。
- (9) 「この通りを行けば、ルーブル美術館に着きますよ。」
○ take A to B 「A を B へと連れて行く」
- (10) 「彼女はプライドが高かったので、他人に助けを求めることができなかった。」

5章 総合問題5

問題

【1】

A.

全訳

たとえギリシャ建築と後に続いたあらゆる建築様式との間にほとんど類似点がないとしても、ギリシャ建築は近代の建築術すべてに影響を与えてきたし、いわば、その後に続くあらゆる建築様式の生みの親である。ギリシャ建築にはアーチもドームもなかつたし、我々の知るかぎりタワーもなかつた。ギリシャの建築家のように完璧な建築家がこれらの特徴を知らなかつたはずはない。これらを採用しなかつたのは、おそらく、まったくの趣味の問題からであろう。

B.

全訳

科学とは知識の固定した塊ではなく、むしろ長きにわたって追求できる「ある動的な過程」なのである。その過程が我々の時代において妥当で成功したものとなったというまさにそのことが、科学の性質に対する多大な誤解や、「科学」や「科学的」といった言葉の少なからぬ誤用を生み出してきた。私たちはあるプロボクサーの「科学的手法」というものを耳にするし、「秘跡の科学」に関する書物も出版されている。どの国の法律にも、国民が自国語の語句に好きな意味を与えることを禁ずる項目はない。だが、このような脈絡で用いられた「科学」や「科学的」という言葉は、我々がここで扱う偉大なる前進的な知識の獲得とは何ら関係のないものである。

【2】

解答

- (1) 「全訳」の下線部①を参照。
- (2) ①平等化が望ましい機会とは、学歴面や経済面で成功するための機会であるという見解〔解釈〕。(39字)
②平等化が望ましい機会とは、出世に関係なくよき生活を営む機会であるという見解〔解釈〕。(38字)

解説

(1)

- ◇ The sentiment of ~ illustrates the first view 「～の心情は最初の見解を例証する」
- Sの部分が非常に長いので、S V Oの骨組みを見落さないこと。
- sentiment *n.* 「①心情；心証 ②意見；感想 ③感傷；涙もろさ」
- illustrate *vt.* 「①～を説明する；例証する ②～に挿絵を入れる」

◇ the father who hopes (挿入) that his son will follow any trade but his own 「息子が

将来、自分の職業以外の職業に従事することを願う父親」《直訳》→「息子に自分とは違う職業に就いてほしい〔自分の商売だけは継がせたくない〕と願う父親」

○ follow *vt.* 「①～の後について行く ②～の言うことを理解する ③～の次に来る
④ (仕事など) に従事する」

○ trade *n.* 「①貿易 ②商売 ③職業」

○ but 「① 《every, any, no 及びその合成語, all, none などの後で》～を除いて, ～以外に ② 《first, next, lastなどの後で》～を含まないで」

この but は前置詞。

○ but his own (trade) と省略がある。

◇ too often, as things are, with reason 「現状では、もっともな理由であることがあまりにも多いのだが」

○ as things are 「現状では (= as things go, as things stand)」

○ with reason 《文修飾》「もっともな理由で；当然」

(2) the first view = the former interpretation = ℓ. 3 ~ 5, the second (view) = the latter (interpretation) = ℓ. 5 ~ 6

文脈の流れを追ってみると、それぞれが何を指すのかは明らかである。

the phrase (= Equality of Opportunity) may express either of two distinct ideals
「機会の平等は2つの異なった理想を表現することがある」



The opportunities which … economic ladder (ℓ. 3 ~ 5)

「(その1つは) 出世するための機会が平等であることである」 (=①とする)



Or they may be opportunities … “rises” or not (ℓ. 5 ~ 6)

「(もう1つは) 出世に関係なく、あらゆる意味でよい生活を営むための機会が平等であることである」 (=②とする)

The emphasis of the former interpretation of the phrase (=①) … individual self-advancement (ℓ. 6 ~ 8)

「①の解釈〔理想〕では流動性が強調され、個人が自己昇進するために最大限の機会が提供されるような状況を確立するのが目的である」



The emphasis of the latter (=②) … human nature demands (ℓ. 9 ~ 15)

「②の解釈〔理想〕では連帯意識が強調され、現在の状況に不満があるために昇進したいと思ったりしないような社会、あるいは経済的にも精神的にも満足できる環境のために、人々が喜んでその環境内にとどまるような社会を確立するのが目的である」



The sentiment … the first view (=①) (ℓ. 15 ~ 16)

「自分の職業を継がせたくない」と願う父親の心情は機会の平等を①ととらえていることを表す」



The attitude … *the second* (=②) (ℓ. 16 ~ 18)

「仲間たちと隔てられるという理由で、役職に就くのを断る労働者は機会の平等を②ととらえていることを表す」

全訳

新体制のスローガンとして、時折、社会主義者たちによって唱えられる決まり文句は「機会均等」である。しかし、この文句は2つの異なる理想、いつもではないにしろ時には相反することもある2つの理想の、どちらも表現することがある。平等化が望まれる機会とは、昇進するための、つまり、成功するための機会であり、1つの地位を捨てて次から次へと他の地位に就くための、月並みな比喩で言えば、教育や経済のはしごを登っていくための機会かもしれない。あるいは、平等化が望まれる機会とは「昇進」しようがしまいが、あらゆる意味でよい生活を営むための機会かもしれない。「機会均等」と言う文句の前者の解釈では、流動性が強調される。その目的は、個人が昇進するための機会を最大限に提供するような状況を確立することである。後者の解釈では、連帯意識が強調される。後者の解釈で求められる社会とは、各個人が自分の才能や趣味の傾向に自由に従うことができる一方、今就いている地位には自分に不利な点が不当にあるため、それにいら立って別の地位を求めようとする衝動が強まったりすることがないような社会である。また、慣れ親しんだ環境内で、経済的な保障ばかりでなく、人間として必要な威信と社会的な接觸、さらに、望むならば、知的な興味と教養を持つことができるという理由で、大多数の人々がその環境内に喜んでとどまるような社会である。④現状ではそれも当然であることがあまりにも多いのだが、息子に自分とは違う職業に就いてほしいと願う父親の心情は、「機会均等」という文句の第1の見解を例証する。監督の役職に就けば仲間たちと分け隔てられるという理由で、職工長の役職に就くのを断る労働者の態度は第2の見解を例証する。

注

- ℓ. 1 ◇ A formula sometimes hailed by socialists as 「～として社会主義者たちによって熱烈な支持を受けることがある決まり文句」《直訳》
 - formula *n.* 「決まり文句；式文；慣習的な方式」*cf. form n.*
formula の複数形は、formulas, formulae (←こちらの方が正式)
 - hailed by ～ は A formula を修飾する。(分詞の形容詞用法)
cf. hail O (as) C 「OをCとして迎える；熱烈に支持をする」
 - ◇ watch-word *n.* 「合言葉；標語；(政党などの) スローガン」
 - ◇ Equality of Opportunity 「機会均等」
- ℓ. 2 ◇ the phrase may express either of two distinct (挿入) ideals 「その文句は2つの異なる理想のどちらも表現することがある」
 - the phrase = Equality of Opportunity
 - distinct *adj.* 「①異なった；別個の ②はっきりした」
- ℓ. 3 ◇ antithetic *adj.* 「正反対の」*cf. antithesis n.* 「完全な相違；正反対 (のもの)」
 - ◇ The opportunities which it is desired to equalize 「平等化が望まれる機会」
 - 関係詞節に it is ~ to … の形式主語の構文がきているので注意する。
The opportunities + it is desired to equalize them

→ the opportunities が equalize の目的語に当たる関係。

○ equalize *vt.* 「～を平等にする」 *cf. equal adj.*

- ℓ. 4 ◇ opportunities to rise; to get on; to exchange ~; to climb ~ 「昇進するための、つまり、成功するための、つまり、～を交換するための、つまり、～を登るための機会」《直訳》

○ それぞれの to 不定詞は、前の to 不定詞を換言している。

○ rise *vi.* 「①出る ②上がる ③そびえ立っている ④出世する ⑤増す ⑥高くなる ⑦立ち上がる ⑧源を発する」

○ get on 「①乗る ②成功する ③何とかやっていく ④仲良くやっていく」

◇ to exchange one position for a succession of others 「1つの地位を他の地位の連続と交換する《直訳》 → 1つの地位を捨てて次から次へと他の地位に就く」

○ exchange A for B 「AをBと交換する；Aを捨ててBを取る」

○ succeed *vi., vt.* 「①成功する ②(～の) 後を継ぐ；～に次いで起こる」

① → success *n.* — successful *adj.*

② → succession *n.* — successor *n.* — successive *adj.*

- ℓ. 5 ◇ in the conventional metaphor 「月並みな比喩で言えば」

○ conventional *adj.* 「①型にはまった ②因習的な、従来の」

○ metaphor *n.* 「隠喻；暗喩」 *cf. simile n.* 「直喻；明喩」

◇ they = the opportunities which it is desired to equalize

- ℓ. 6 ◇ in all senses of the term 「その言葉のあらゆる意味で」

○ sense *n.* 「(語・文などの) 意味；意図」

○ the term = a good life

- ℓ. 7 ◇ emphasis *n.* 「強調」 *cf. emphasize vt.*

◇ interpretation *n.* 「解釈」 *cf. interpret vt.*

◇ mobility *n.* 「流動性」

◇ Its aim is the establishment of ~ 「その目的は～の確立である」

- ℓ. 8 ◇ conditions which offer the maximum scope for individual self-advancement 「個々の自己昇進のための最大限の機会を提供する状況」《直訳》

○ maximum *adj.* 「最大限の」 (⇒ minimum)

○ scope *n.* 「①範囲 ②(活動などの) 機会；余地」

- ℓ. 9 ◇ solidarity *n.* 「団結；結束；連帯意識」

◇ The society sought by it is one in which, … and in which …

○ 関係詞節が接続詞 and によって並列されている。

○ sought by it は The society を修飾する (分詞の形容詞用法)

cf. seek *vt.* 「～を捜す；得ようとする」 [seek – sought – sought]

○ it は the latter (interpretation of the phrase) を指す。

○ one は a society を指す。

◇ while individuals are free to follow the bent of their talents or tastes 「各個人が自分の才能や趣味の傾向に自由に従うことができる一方で」

- be free to … 「自由に…できる」
- bent *n.* 「傾向；好み」 *adj.* 「①曲がった ② (be bent on O) Oをしようと決心している；Oに熱中している」 *cf. bend vt.*
- ℓ. 10 ◇ the impulse to seek a new position is not sharpened by exasperation at unnecessary disabilities attaching to that already held 「新しい地位を求める衝動が、すでに持っている地位に付随する不必要な不利に対する激怒によって強まらない」《直訳》
- impulse *n.* 「①衝動 ②推進力」
- to seek a new position は the impulse を修飾する形容詞用法の不定詞。
- sharpen *vt.* 「① (刃物など) を鋭くする ② (欲望など) を激しくする」 *cf. sharp adj.*
- exasperation *n.* 「激情；激怒」
- attaching to that already held は unnecessary disabilities を修飾する（分詞の形容詞用法）。
- attach to ~ 「～に付着する；付隨する」
- that は the position を指す。
- already held は that を修飾する（分詞の形容詞用法）。
- ℓ. 12 ◇ the majority of men are happy to continue in familiar surroundings 「大多数の人々が喜んで慣れ親しんだ環境内にとどまる」《直訳》
- be happy to … 「喜んで…する」
- continue *vi.* 「①続ける ②引き続き…である ③とどまる」
- ℓ. 13 ◇ because they enjoy in them, not only ~, but … 「なぜなら彼らは～だけでなく…もそれらの中で楽しんでいるからである」《直訳》
- enjoy の目的語は not only ~, but … の部分である。
- them = familiar surroundings
- ◇ but A, B, and, (挿入), C and D, which human nature demands
- which は A, B, C, D を先行詞とする非制限用法の関係代名詞節。
- human nature demands 「人間性が要求する」《直訳》
- if they please 「もし望むならば」《条件》
- ℓ. 16 ◇ The attitude of ~ illustrates the second 「～の態度は 2 番目の見解を例証する」
- ℓ. 17 ◇ the worker who refuses a foreman's job because it would divide him from his mates
- foreman *n.* 「(職人・職場などの) 親方；班長；監督」
- divide O from ~ 「Oを～と分ける；分離する」

【3】

A.

解答

- (1) She tried to look much younger than she really was.
- (2) Nobody can see this movie without being moved.

- (3) This box must be large enough for all those boxes.
(4) By the time you come back, I will have gone [I'll have gone out].

解説

- (1) 「…しようとした」は、tried が与えられているので、tried to … で表す。「年より若く見せる」は、「実際の自分（がそうであった）より若く見せる」と考えて、look younger than she was となるが、really が与えられているので、than she *really* was として、意味をより明確にする。「ずっと」は、比較級を強める副詞 much を younger の前に置けばよい。
- (2) 「～して…しない者はいない」は、can と without が与えられていることから、nobody can ~ without …ing の構文を用いる。「感動する」は、moved が与えられているので、be moved で表す。Move は「～を感動させる」の意の他動詞。「この映画を見る」は see this movie である。
- (3) 「～に…が入る〔収まる〕」は、large と for が与えられているので、「～は…が入るのに十分な大きさである」と考えて、～ is large enough for …で表せる。「きっと」は、must が与えられているので、「十分な大きさに違いない」と考えて、～ must be large enough for … となる。「その箱が全部」は、all the [those] boxes とする (all that boxes とすると、that と boxes が矛盾する)。
- (4) 「…する頃には」は、By が与えられているので、By the time …で表す。「時・条件を表す副詞節では単純未来の will は用いない」というルールにより、「君が戻ってくる頃には」は、By the time you come back となる。「僕は出かけてしまっているよ」は、gone が与えられているので、未来完了形を用いて、I will have gone, または I'll have gone out とする。

B.

解答

- (1) We'd better hurry up, or we'll be late for class [school]. We're having an English exam today.
(2) I suggest that we [Let us] always consider whether what is now going on in Japan and the rest of the world may not develop into a future war.

解説

「提案・勧誘」を意味する表現を扱う。

- (1) ここでの「急ぎましょう」はアドバイスなので Let's では不自然。We'd better hurry up とすればよい。また、「急いで行かなければ」と考えて、we've really got to run としてもよい。

「でないと」は、～, or …で表すのが最も簡潔。

「授業に遅れる」は be late for class [school], 「試験」は、話し言葉では exam を用いる。「英語の試験」は an English exam, または, an exam in English とする。

「今日は英語の試験よ」は、we を主語にして進行形にして、we're having an English exam [an exam in English] today とすればよい。

- (2) 「…しようではありませんか」は演説口調なので、Let us …, または, I suggest that

we (should) …で書き出すとよい。「現在～と…で起こっていること」は、「起こっている」「続いている」の意を表す be going on を用いて, what is now going on in ~ and …とする。

cf. What's going on here? (ここで一体何が起こっているのか。)

「世界と日本で」は「日本と、世界のその他の国々で」と考えて, in Japan and the rest of the world とする。

「…する恐れはないか」は、文字通り英語にすれば, whether there is any fear that …となるが、ここでは「恐れ」を「可能性」と考えて may を用いる方が、「**解答**」のようにシンプルな表現になる。

【4】

解答

- (1) red (2) orange (3) green (4) blue (5) Indigo
(6) violet (7) white (8) black [red]

解説

- (1) 「私の先生は私の愚かなミスを見つけた途端、怒った。」
○ see red 「激怒する」闘牛の赤布が由来。
red を用いる他の表現としては、get [go] into the red (赤字になる) などがある。
- (2) 「この説明書はまったくちんぶんかんぶんだ。まさしく役立たずだよ。」
○ a squeezed orange 「役に立たない人〔もの〕」搾られたオレンジ (のカス) から。
- (3) 「私の新しいボルシェのオープンカーは同僚のことを嫉妬でうらやましがらせるだろう。」
○ green with envy 「嫉妬でうらやむ」嫉妬で顔色が青くなるほど、が由来。
green を用いる表現としては他に、He is green as grass. (彼は青二才だ。) などがある。
- (4) 「私はトムとのディナーを楽しんでいた。が、突然彼は別れを切り出した。」
○ out of the blue 「唐突に」 e.g. bolt out of the blue (青天の霹靂)
- (5) 「インディゴは日本では藍色と呼ばれ、その深く神秘的な色合いのため尊重されてきた。」
- (6) 「エミリーは無口で、控え目で恥ずかしがり屋だ。」
○ as shy as a shrinking violet 「しほんでいくスミレのように恥ずかしがり屋で」
violet (スミレ) は謙遜の象徴。
- (7) 「もし僕が君なら、絶対的な真実を言うのではなく、悪気のない嘘をつくけど。」
○ a white lie 「悪気のない嘘」
他に white を用いる表現としては、a white elephant (無用の長物) などがある。
- (8) 「そのIT企業は来年は黒字〔赤字〕に転じることが予想されている。」
○ the black 「黒字」 the red 「赤字」は日本語と同じ。

【5】

解答

- (1) a (2) a (3) c (4) d (5) c

解説

(1) 「トーマスは皆が尊敬するような聰明な少年だ。」

such ~ as の as は（疑似）関係代名詞であるから Thomas is such a smart boy as everybody respects. と him を削除する。または、b のように as ではなく that を使うのも可。c ~ d はいわゆる so ~ that 構文で正しい（= トーマスは聰明な少年なので誰もが彼を尊敬する）。

(2) 「ドアを開けるや否や、白い子犬が入ってくるのが見えた。」

sooner は比較級であるから、when を than にするのが正しい。

○ As soon as S V, ~ = The moment S V, ~ = On …ing, ~

(3) To our much delight を Much to our delight [To our great delight] にする。

a, b 「彼はビジネスで成功したため両親は大変喜んだ。」

c 「私たちが大変喜んだことに、彼はビジネスで成功した。」

d 「幸いなことに、彼はビジネスで成功した。」

(4) 「どうして彼は怒ったの？」

How come he got angry? が正しい。How come S V? （どうして S は V か）は “How comes it that S V?” からきたと言われる。

(5) little は否定の副詞のため、文頭に置かれるとその後は倒置形になる。Little did she know what I was about to do. が正しい。

a 「彼女は私がしようとしていることをまったく知らない。」

b 「彼女は私が意図していることをまったく知らない。」

c 「彼女は私がしようとしたことをまったくわからなかった。」

d 「彼女は私がしたいことをまったくわからなかった。」

6章 総合問題6

問題

【1】

A.

全訳

「子供のしつけ」という言葉に対して、「教育」という言葉の方が、子供たちの個性を形成しようとする大人たちによるより格式ばった努力という意味を暗に含むが、未開社会の人々の間では、その両者の違いは、どこをみても、アメリカ社会の場合のように大きなものではないのだ。未開社会の人々は、今日の学校教育に携わっている人々がしているのとは異なり、いわゆる「生涯教育」を問題にすることは決してないのだ。未開部族においては、教育とは生きることなのである。

B.

全訳

想像力のある人たちは決して満足しないし、しないのはいいことである。ⓐこの世においてなされた進歩はどんなものであれ、対立する意見の結果生み出されたものであった。 ユートピア物語はたいていそれらの異なった思想を表現したもの、つまりⓑ現状とありうる姿との比較なのである。多くの空想的な小説が、風刺的であるのは避けがたいことである。というのも、風刺は現在の不合理を指摘する最も容易な方法であるからだ。よりよい未来を思いつくことができるのには、現在が非難される時のみなのである。

【2】

解答

- (1) 「**全訳**」の下線部ⓐ参照。 (2) dependency
- (3) 誰かに頼りたいという欲求——赤ん坊の時に戻って、養育され、面倒をみてもらい、危険から守られたいという欲求
- (4) 「**全訳**」の下線部ⓐ参照。
- (5) as males are educated for independence (from the day they are born)
- (6) b (7) a, f

解説

本文を要約するとしたら、第1段落はⓓの下線部と、第2段落は、女性が自立できない理由を述べた Males are educated ~ . Just as systematically, (females) are ~ to be saved. の部分が不可欠である。この問題文の構成は陳述とその根拠という単純で基本的、それ故にしばしば使われる手法である。

- (1) Childhood, when we were safe, (*and*) when everything was taken care of and Mommy and Daddy could be counted on whenever we needed them (*, is where the problem begins*). の () の部分が省略されていると考える。

- count on = rely on
- (2) 空所の後がコロンであるので, the need to lean on someone が空所の単語の説明になる。「誰かに頼ろうとする欲求」であるから正解を得るのは容易。
- (3) 直前の文のコロン以下を指す。the need to lean ~ をさらに説明しているのが, the need, going back to infancy, ~ である。
 the need と单数であるが, to be nurtured and (to be) cared for and (to be) kept ~ と並んでいるので筆者の中に複数の意識が生じて Those needs となったものである。
 from harm's way (= out of harm's way) はここでは in a place of safety の意味で用いられている。
 他の人に依存しようとする欲求は infancy → childhood → adulthood と続いていることがわかる。
 stay *into* の *into* は 時間・空間の継続を表す。
- (4) since they were children が挿入節であることがわかれればよい。women have been encouraged to be dependent ~ とつながっている。
- encourage A to … 「Aをはげまして…させる」
 - to an unhealthy degree 「不自然なほど」
 - unhealthy = unnatural, not normal
- (5) as に注目する。as … as の構文である。(6) も関連してくるのだが、この部分の前に、「男性は生まれたその日から自立心を持つように教育される」とある。この教育の方法が systematically である。「それとまったく同じように計画的に」と言っているのである。
- systematically = in a systematic way
cf. systematic = done according to a system or plan, in a thorough, efficient or determined way
- (6) ここは、一つ前の文, *Males are educated* … と対照的になっている部分。「男性は自立心をつけるように教育されるのに対して、女性は逃げ道があると教えられる」ということ。
- (7)
- a 「子供たちは悪夢や不眠症に悩むことはない。」 Nighttime was not nightmares … until sleep came. が幼児期のことである。大人である若者は、今では悪夢や不眠症に悩んでいるが、子供のときにはそういうことはなかった。これを一般論で言ったもの。一致する。
 - b 「健康な大人なら眠る前の木々にそよぐ風の音が快いだろう。」 風の音を聞いているうちに眠ってしまうのは子供について述べたもの。一致しない。
 - c 「女性が人に依存したいと思ってもその強い欲求が満たされることはめったにない。」 women have been encouraged ~ to be dependent to an unhealthy degree とあるから、女性の他人への依存欲求は満たされると考えるのが自然である。一致しない。
 - d 「筆者は、男性は生まれながらにして自己充足ができるのだと思う。」 第2段落に It is

not nature … ; it's *training*. とある。男性が自己充足の能力を身につけるのは訓練によるのであって、生来のものではない。一致しない。

- e 「自力で立ち上がった女性はだれでも自立のまねごとをしていたにすぎないと筆者は考えている。」筆者はこのような主張をしていない。女性は自立のまねごとはしたかも知れないと本文にある。しかし、この stood up for herself は自立のまねごとではなくて自立そのものを意味する。
- f 「女性が誰かを頼りにしがちなのは自立の訓練を受けていないからである。」本文に she was never trained to feel … asserting herself とある。本文の要旨に近いもので、一致する。

全訳

幼児のころに問題は始まっているのである。^④私たちが安全で、どんなことでも面倒を見
てもらえ、お母さんやお父さんの助けが必要なときにはいつでも、頼りにすること
ができた幼児期に問題は始まっているのだ。夜という時間も、悪夢や不眠症に悩まされず、
その日にやった間違った行いあるいはもっと立派にできたかもしれないことに心を悩ませ、異常なま
でもくどくどと神に祈るということもなかった。ベッドに横たわり、眠くなるまで風が木々にそよぐのに聞き入るだけであった。私たち女性が家庭生活に強い憧れをもつことと、意識
の表層のすぐ下にあるように思われる幼児期についての気持ちを和らげてくれる夢想との間
には関係があるということを私は知っている。それは依存と関係がある。即ちだれかに頼り
たいという欲求——赤ん坊の時に戻って、養育され、面倒をみてもらい、危険から守られて
いたいという欲求——と関係があるのである。まさに、私たちの自己充足の欲求と並んで、
そういう欲求が私たちの心の中にあり、それが大人になっても続き、その欲求を満たしても
らいたくて騒ぎたてるのである。ある程度までは、女性にとってのみならず男性にとっても、
依存したいという欲求はまったく正常である。しかし、^⑤女性は子供のころから不自然なま
でに、人に頼ることを奨励されてきたのである。心の内面をよく見ている女性ならだれでも、
自分のことは自分でやり、自分の力で立ち上がり、自己主張をするという考え方に対して心
地よく思えるようにと訓練されたことは一度もなかったということを知っている。ひいき目にみても、女性は、男の子（そして後には大人の男性）がとても「自然に」自己充足してい
るように思えて内心うらやましく思いながら、自立っこをしたことがある程度であろう。

このような自己充足を男性が授かるのは生まれながらではなく、訓練の結果である。男性
は、生まれた日から自立のための教育を受けるのである。（男性が教えられる場合と）まっ
たく同じように計画的に、女性には逃げ道がある——いつの日か、何らかの方法で救い出さ
れるのだと彼女たちは教えられるのである。これは私たち女性がまるで母乳といっしょに飲
みこむかのように取り入れてきた例のお伽噺、人生の託宣である。

注

- ℓ. 1 ◇ Childhood is (at the stage) where the problem begins.
 - childhood を stage (段階) と考えているから、when ではなく where なのである。
 - childhood = the state or period of being a child
- ℓ. 3 ◇ not A or B or C 「AでもBでもCでもない」
 - ◇ nightmare 「悪夢のような状態〔経験〕」

- ◇ insomnia[ɪnsəʊmniə] 「不眠症」
- ◇ haunt[hó:nt] 「(思い出・感情などが) ~に絶えず浮かぶ；つきまとう」
- ◇ obsessive = thinking too much about one particular thing in a way that is not normal
- ◇ litany[lítəni] 本来、(英國国教の Book of Common Prayer の中の)「祈願文」のことであるが、ここでは、夜、眠る前にその日の自分の誤った行動を後悔して、神に祈る行為を示している。

ℓ. 4 ◇ it は nighttime を指す。

※ ℓ. 3 からの Nighttime was not ~ ; it was から、it = nighttime と考える。

ℓ. 5 ◇ caress[kərəs] = touch or stroke gently or lovingly

※ 「(子供などを) 愛撫する；あやす」という意味でよく用いる。

◇ There is, I have learned, a connection ~ .

≒ I have learned that there is a connection ~ .

○ learn = acquire knowledge of (something) through experience

○ a connection between A and B 「A と Bとの関係」

ℓ. 6 ◇ our feminine urge 「私たち女性に特有の衝動」筆者は女性である。

○ feminine[fémənɪn] 「女の；女性特有の」

◇ urge towards 「～を求める衝動」

◇ domesticity[dōumestɪsəti] = home or family life

◇ those ~ which … those は関係詞の複数形の先行詞を修飾。訳出しない。

◇ lulling < lull[lʌl] = make somebody relaxed and calm

◇ reverie[révəri] = a daydream (楽しい空想；夢想)

ℓ. 7 ◇ just = right ; directly

◇ beneath = under

◇ surface[sé:rfs] 「表層」

◇ consciousness[ká:nʃəsnəs] 「意識」

cf. conscience[ká:nʃəns] (善悪の判断力)

◇ It は our feminine urge towards domesticity を指す。

ℓ. 8 ◇ lean on = rely on or derive support from

◇ infancy[ínfənsi] = the state or period of early childhood or babyhood

◇ nurture[ná:tʃər] = rear and encourage the development of (a child)

◇ care for = feel affection or liking

◇ be kept from harm's way 「禍を避ける」

= keep out of harm's way

○ keep A from B 「AをBから防ぐ」

ℓ. 9 ◇ clamour [clamor] = shout or demand loudly

ℓ. 10 ◇ fulfilment cf. fulfill = satisfy or meet (a requirement)

○ right = directly

◇ alongside = alongside of ; close to the side of ; at the same time as or in

coexistence with

- ◇ self-sufficient = able to do or produce everything that you need without the help or other people
- ◇ up to a point = to some extent but not completely
- ◇ dependency = the state of being dependent

ℓ. 12 ◇ any[éni] … 種類の任意

- ◇ within = inwardly

ℓ. 14 ◇ stand up for = support or defend

- ◇ assert = state a fact or belief confidently and forcefully
- ◇ at best = talking the most optimistic view
- ◇ may have 過去分詞 … 過去のことに対する推量
- ◇ the game of independence 「自立ごっこ；自立のまねごと」

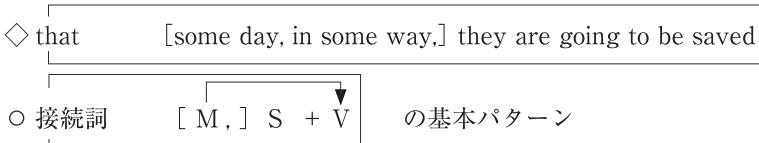
ℓ. 15 ◇ envy = wish you had the same qualities, possessions, opportunities, etc. as to somebody else

ℓ. 17 ◇ It is ~ that … 強調構文

- ◇ nature = inborn or hereditary characteristics as an influence on or determination of personality
- ◇ bestow[bistóu] A on B = give A (something) to B (somebody), especially to show how much they are respected
- ◇; (but) it's training (that bestows this self-sufficiency on men)

ℓ. 18 ◇ the day (that) they are born that は関係副詞。

ℓ. 19 ◇ out = a way of escaping from a difficult situation



ℓ. 20 ◇ save = rescue from harm or danger

- ◇ introject この語は本来精神分析 (psychoanalysis) の用語で、「(無意識的に) 自我の中に取り入れる」の意。女性は、母乳といっしょに飲むかのように自然に、自分たちには逃げ道があって人に救ってもらえるのだというお伽噺を受け入れてしまっているというのである。

cf. introduction [intrədʒékʃən] 「取り入れ、取り込み；自己と本来無関係な対象に関する表象（他者の行動様式・考え方・性格）をあたかも自己の属性であるかのように無意識に考える精神作用。」

- ◇ as if with mothers' milk

- as if … 前置詞句・不定詞句・分詞を残すだけの縮約節を導くことがある。本問がそれにあたる。

cf. As if by magic, he became the President. (魔法のように、大統領になった。)

【3】

解答

- (1) Let me see you do it again.
- (2) We have been friends for over [more than] twenty years.
- (3) This door is usually kept locked.
- (4) You are old enough to know that.
- (5) I cannot tell which is the right side of this paper.
- (6) He was listening to the radio with his eyes closed.
- (7) Are you sure you don't need this book any more [longer] ?
- (8) Some people dislike eels because they look like snakes.
- (9) Could I have [Could you give me] something to carry these apples in?
- (10) It didn't take him a minute [take a minute for him] to make up his mind.

解説

- (1) 「もう1度やってみせて」という日本文だが、英語にする場合にはそれぞれの動詞とその主語・目的語を対応させて考える必要がある。
「～を（私に）見せる」は、普通なら show me ～とするところだが、ここでは let が与えられているので、「～を（私に）見させる」と考えて、let me see ～とする。
次に、see の目的語をどうするかだが、「もう1度（あなたがそれを）やるのを」と考えられるかどうかがポイント。see A … (Aが…するのを見る) の形を使えば、see you do it again となり、これを let me に統ければよい。したがって、Let me see you do it again. となる。
- (2) 現在完了を用いる典型的な英訳問題。「20年以上の付き合いです」は、friends が与えられているので、「20年以上（ずっと）友人でいます」と考えて、have been friends for over [more than] twenty years とする。
- (3) 「ロックしてある」は、kept が与えられていることから、「ロックした状態に保たれている」と考えて、be kept locked となる。
○ keep A locked 「Aをロックした状態にしておく」
- (4) 「君ぐらいの年になれば」という日本文に対して old という語が与えられていることから、be old enough to … という表現を用いればよい。
- (5) 「見分けがつかない」は、与えられた cannot tell をそのまま用いればよい。
「この紙はどちらが表だか」をどう訳すかが難しいが、right, side という語が与えられているのが大きなヒント。「(紙の) 表」を「(紙の) 使うのに適切な面」と考えるのが英語の発想。したがって、「この紙はどちらが表だか」は which is the right side of this paper と表せる。
- (6) 「付帯状況」を表す with を用いる典型的な英訳問題。with his eyes closed として、「彼はラジオを聞いていた」の後に統ければよい。
- (7) 「本当に…ですか」という相手に何かを確認する場合の表現として最もよく使われるものが、Are you sure …? で、その後に確認したい内容を平叙文の形で統ければよい。
ここでは「あなたはこの本をもう要らない」ということで、need が与えられている

ので, you don't need this book any more [longer] を続けることになる。

- (8) 「…する人がいる」は, some people … を用いればよい。
「ウナギを嫌う」は与えられた dislike eels をそのまま, 「ヘビみたいだからと言って」は「(ウナギが) ヘビみたいに見えるから」と読み換えるのが自然。したがって, because they (= eels) look like snakes とすればよい。
- (9) 「～をくれませんか」という依頼の表現には, could が与えられているので, Could you give me ~?, Could I have ~? を用いる。
「このリンゴを入れていくもの」は, 普通に考えれば, 何かカゴのような (その中にリンゴを入れるための) もののはずなので, something to carry the apples *in* とする。
- (10) 「Aが…するのに～かかる」は it takes A ~ to …, it takes ~ for A to …。
「1分とかからなかった」は not a [one] ~という表現を使って, it didn't take him a minute to …, または, it didn't take a minute for him to …で表すことができる。
「(彼が) 決心するのに」は, his mind が与えられているので, to make up his mind とすればよい。

【4】

解答

- (1) die (2) desert (3) ground (4) fine (5) well
(6) fold (7) mean (8) minute (9) novel (10) order
(11) tap (12) dead

解説

- (1) (a) die 「サイコロ」(複数形が dice)
「さあ, 賽は投げられた。もう計画を変更することはできない。」
(b) die hard 「なかなか消えない」
「私の父はどんなに頑張ってもタバコをやめられない。昔の癖は取れないものだ。」
- (2) (a) desert ~ 「～を見捨てる」
「何が起こうと, 決して君を見捨てたりしない。そばにいるよ。」
(b) desert 「砂漠」
「たいていの人は単純に, 砂漠では水がまったく見つからないと思っているが, それは本当ではない。」
- (3) (a) ground 「根拠」
「銀行は, 私の筆跡が違うという根拠で支払を拒んだ。」
(b) ground = grind ~ (～を挽く) の過去分詞形
「米国のスーパーで売っている挽肉の70%にピンクスライムが入っているって信じるか。」
- ※ピンクスライム：通常食肉として使用されない部位の牛挽肉に水酸化アンモニウムなどを加えることで, サルモネラ菌などの病原菌を撃退するほか, 味をよくするため調整したもの。大手ファーストフード店が使用していたことを認め米国では騒ぎとなつた。

- (4) (a) fine 「罰金」
「先月私は信号無視でひどい罰金を課せられた。」
(b) fine 「素晴らしい」
「ツイッターは素晴らしいが、フェイスブックにはどうもイライラさせる何かがあると思う。」
- (5) (a) well 「井戸」
「私の家の裏には古い井戸があった。それはかなり前に作られたものだ。」
(b) well 「十分に」
「実際、女学校は近代初期よりかなり前に存在していた。」
- (6) (a) (hundred-) fold 「(100) 倍」接尾辞として fold を付けて「…倍の」の意になる。
「HIV ／ AIDS にかかった女性の数は 100 倍増加した。」
(b) fold ~ 「～を折りたたむ」
「最初に、三角形になるようにその折り紙を折って下さい。」
- (7) (a) mean ~ 「～を意味する」
「あなたたち、ジョンについて話しているの？ 彼はもう私にとってどうでもいい人よ。」
(b) mean 「意地の悪い；卑しい」
「あなたたち、ジョンについて話しているの？ そんな意地悪しないで。2カ月前に別れたことを知っているでしょ。」
- (8) (a) minute 「詳細な；微細な」 [maɪn(j)ú:t] (発音注意)
「名医とは患者のいかなる微細な変化も見つけ出すことができる。」
(b) minute 「分」
「分針は1時間で1周するが、時針は12時間で1周する。」
- (9) (a) novel 「目新しい」
「教授はいつも、私たちは地球温暖化に斬新なアプローチを取るべきだと言っている。」
(b) novel 「小説」
「ベストセラーのそのミステリー小説は最近映画化された。」
- (10) (a) order ~ 「～を注文する」
「科学技術のおかげで、今やオンラインで何でも注文できる。」
(b) order 「順番」
「ハワイの8つの大きな島を北から南へ順番で言うと何か。」
ちなみに答えは、Kaua'i, Ni'ihau, O'ahu, Moloka'i, Maui, Lana'i, Kaho'olawe, Hawai'i となる。
- (11) (a) tap into ~ 「～を利用する」
「私たちは途方に暮れたが、とにかく何とかウェブを利用して最新のデータを見つけることができた。」
(b) tap water 「水道水」
「ペットボトルの水は水道水と比べてちっとも健康的ではないとよく言われる。」
- (12) (a) dead 「完全に」

「彼の事業は倒産し、彼は完全に一文無しになった。」

(b) dead 「完全な」

「機体が完全に停止するまで座席から離れないで下さい。」

【5】

A.

解答・解説

※カッコ内は削除すべき語の前後の語。

(a) (and) they (recited)

Poems were written and recited と過去分詞が並んだ形である。

(b) (tea) was (drinking)

tea drinking とつなげることで、The Chinese style (S) spread (V) となる。

(c) (894,) in (the)

was extinguished とあるから「消された」のは何かを考える。すると the light が主語となるべきとわかる。

全訳

彼らがお茶を飲んでいる間、和歌が書かれ詠まれていた。というのはこの時代は貴族、僧、文人の間で中国文化を模倣する時代だったからだ。お茶を飲む中国流の習慣はこのように、平安時代の始まりまでに広まった。しかし、遣唐使の派遣が894年に中止になると中国について学ぼうという光は徐々に消されていった。

B.

解答・解説

(a) whose

whose と which のどちらかが不要であることはわかる。inferiority feelings と考える。

(b) them

them = others などと考えても意味が通らない。

(c) as

この if 節は後の whether 節と同様に wonder の目的語となる名詞節であると考える。

全訳

自意識はまったく無意識の可能性がある劣等感から引き起こされる。何らかの方法で、私たちは他の人とは「違っている」と感じる。この孤立感により、人々を避けることで可能性のある批判から逃れたいと思う。私たちは人と一緒にいて、くつろげることはない。なぜなら、人に興味を持つ代わりに、自分の外見や、自分はきちんと振る舞えているか、相手の注意を引きつけておけるか、自分のことが好きだろうか、などということに気をもんでいるからだ。

E3T/E3TK/E3TF

難関国公立大・医学部英語／難関大英語 T

京大英語／難関大英語 T (京大)

一橋大英語／難関大英語 T (一橋大)



会員番号

氏名

不許複製